資料3

第21回 那賀川学識者会議

－那賀川水系河川整備計画の点検報告について－

令和7年7月17日

国土交通省　四国地方整備局

徳　島　県

1．点検の位置づけ

2．流域の概要

3．事業の進捗状況
　3．1　河川整備計画の主なメニュー
　3．2　主なメニューの進捗状況等

4．事業進捗の見通し
　4．1　当面の段階的な整備の予定

5．その他

1. 河川整備計画の点検及び変更の位置づけ

河川整備計画点検の手法

《点検の手法》

◆点検の実施にあたり第三者の意見を求める場として、各河川に精通している学識経験を有する者から構成される「那賀川学識者会議」を設置し、意見を聴くものとする。
◆学識者会議は、原則公開で行うものとし、議事録については公表する。

《点検の内容》

◆**総合点検**：以下に示す点検内容により実施した点検結果について報告し、委員の意見を聴く。
1）流域の社会情勢の変化（土地利用や人口・資産等の変化、近年の災害発生の状況等）
2）地域の意向（地域の要望事項等）
3）事業の進捗状況（事業完了箇所、事業中箇所の進捗率等）
4）事業の進捗の見通し（当面の段階的な整備の予定等）
5）河川整備に関する新たな視点（施設の能力を上回る洪水等への対応）等
6）河川整備計画の点検結果

◆**通常点検**：現地調査等を実施するなど、河川整備計画の進捗を報告し、把握・共有を目的に実施。

《点検の頻度》

凡例
■総合点検（１回/５年）
□通常点検（毎年）

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10以降
点検	□	□	■	□	□	□	□

今回の点検（R7）

2. 流域の概要

表　那賀川流域の概要

項　　目	内　　　容
流域面積	874km^2
流路延長	125km（うち国管理区間52.41km） 那賀川本川31.57km（下流18.04km、上流13.53km）、派川那賀川3.63km、桑野川7.00km、菖蒲谷川1.49km、坂州木頭川8.57km、拝宮谷川0.15km
流域内市町村	阿南市、那賀町、小松島市、勝浦町、美波町
流域内人口	約41,000人（令和5年度　那賀川河川事務所調べ）※1
想定氾濫危険区域内人口	約65,000人（令和5年度　那賀川河川事務所調べ）※1
年平均降水量	約3,400mm（上流域）【全国平均：約1,700mm】※2
流域の主な産業	製紙、化学工業製品、製材、木工等

※1　令和2年国勢調査の人口データ（250mメッシュ）を使用して流域内人口、想定氾濫区域内人口を算出
※2　各県の降雨量（都道府県ごとに1地点）の平均値【気象庁アメダス平均値（統計期間：1991年～2020年）】

那賀川流域図

3. 事業の進捗状況

3.1 河川整備計画の主なメニュー

国管理区間の河川整備計画の対象期間と整備目標

河川名	対象期間	整備目標（洪水を安全に流下させるための対応）
那賀川	概ね30年	年超過確率1/50の規模の洪水に対し、那賀川の氾濫による浸水被害を防止する。（古庄地点目標流量9,700m³/s）
桑野川	概ね30年	年超過確率1/50の規模の洪水に対し、桑野川の氾濫による浸水被害を防止する。（大原地点目標流量950m³/s）

3. 事業の進捗状況

3.1 河川整備計画の主なメニュー

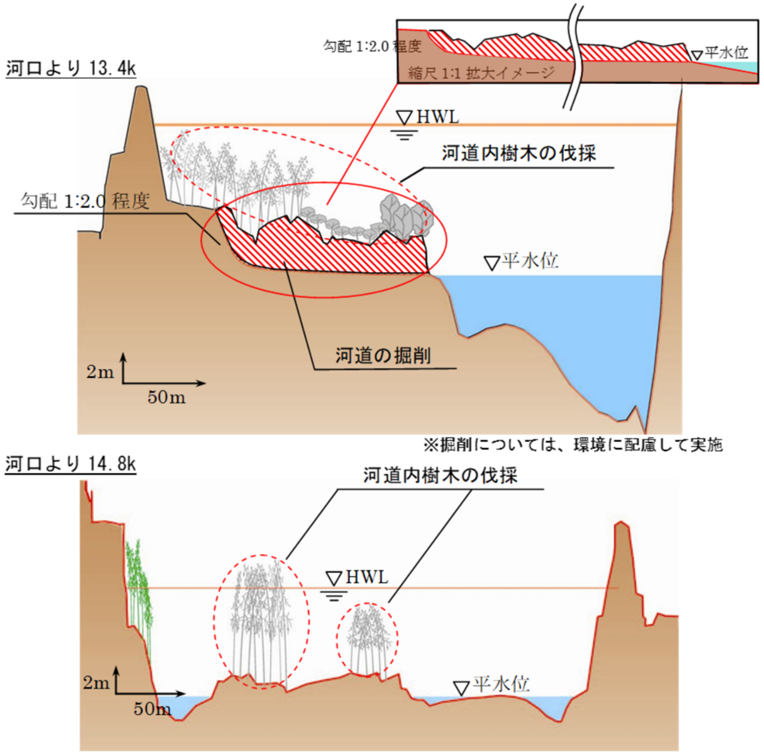
分野	河川整備計画の主なメニュー	個別整理
治水	・加茂地区の堤防整備	完成
	・河道の掘削等(流下能力対策)	No.1
	・長安口ダムの洪水調節機能の増強(長安口ダム改造事業)	完成
	・既設ダムの有効活用(小見野々ダム再生事業)	No.2
	・長安口ダム長期的堆砂対策(長安口ダム改造事業)	No.3
	・侵食対策(局所洗掘対策)	No.4
	・堤防の浸透対策	No.5
	・内水氾濫対策	
	・大規模地震・津波・高潮への対策	No.6
	・防災関連施設等の整備	
	・施設の能力を上回る洪水等を想定した対策(危機管理型ハード対策)	完成
	・県管理区間の河川整備【①那賀川(②出原地区、③和食地区・土佐地区、④阿井地区、⑤十八女地区)、⑥宮ヶ谷川、⑦桑野川、⑧岡川、⑨大津田川】	No.7 (①～⑨) ※③:完成
利水	・長安口ダム長期的堆砂対策(長安口ダム改造事業)	
	・長安口ダムと川口ダムの底水容量を不特定容量として利用	
環境	・長安口ダム発電取水口への選択取水設備の設置	完成
	・長安口ダム貯水池上流で除去した土砂を下流河道へ還元	
	・動植物の生息・生育・繁殖の保全・創出 (生態系ネットワーク・自然再生事業・多自然川づくり)	No.8
	・河川空間の利用(那賀川かわまちづくり)	完成
維持管理	・河川・ダムの維持管理	
	・災害復旧(河川管理施設の緊急的な対策)	
	・地域と一体となった河川管理	
	・危機管理への対応(水防災意識社会再構築ビジョン)	
	・総合的な土砂管理	
	・その他:流域治水に関する取り組み	

1. 河道の掘削等（流下能力対策）

洪水を安全に流下させるための対策（国の取り組み）

事業の概要

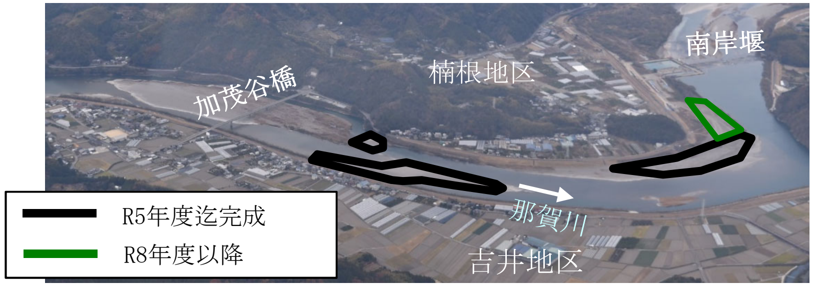
堤防の整備を実施しても流下能力が不足する区間では、河道内樹木の伐採、河道の掘削を行い、必要な流下能力を確保します。
河道の掘削にあたっては、魚類等の生息場である瀬と淵の改変を極力行わないよう平水位以上の掘削を実施します。
また、水際部から陸域については、連続性を確保した掘削をするなど、可能な限り多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。



河道の掘削・樹木伐採イメージ

実施と達成

令和3年度～令和5年度にて那賀川上流（吉井・楠根箇所）の河道掘削（68, 900㎥）を実施しました。



施工前（令和2年6月撮影）

施工後（令和3年3月撮影）

今後の予定

令和8年度以降、引き続き対策必要区間の河道掘削を進めていきます。

2. 既設ダムの有効活用（小見野々ダム再生事業）

洪水を安全に流下させるための対策（国の取り組み）

事業の概要

【既設ダムの有効活用】

小見野々ダムは、那賀川の上流部に位置する四国電力（株）管理の発電専用ダムです。

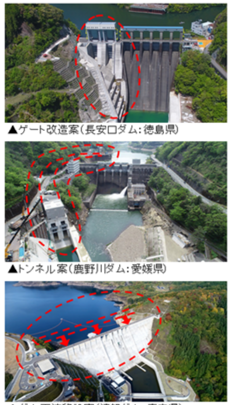
本事業は小見野々ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保する目的で、令和元年度に新規事業採択評価を行って事業化され、令和2年度から事業着手しています。事業完了は令和20年度を予定しており、総事業費は約500億円です。

新たな洪水調節機能の確保方策として、既設ダムの有効活用のほか、進行が顕著である貯水池内の堆砂除去を行います。

既設の小見野々ダムのゲート放流口は敷高が高い位置にあり、堆砂除去後でも洪水調節容量への活用が困難となっています。そのため、既設ゲートよりさらに低い位置に放流設備を新設し、貯水容量を洪水調節容量として利用することを可能とすることで、小見野々ダムを洪水調節機能を持つダムに再生します。

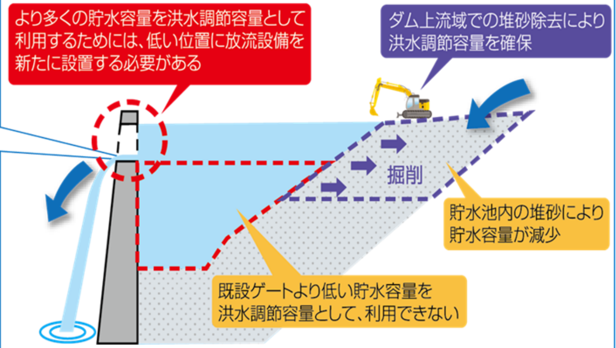
なお、本事業の実施にあたっては、堆砂対策も含め施設管理者と協議して、各種調査・検討を行い必要な対策を実施します。

■ダム再生の例



▲ゲート改造案（長安口ダム：徳島県）
▲トンネル案（鹿野川ダム：愛媛県）
▲ダム下流移設案（津軽ダム：青森県）

■小見野々ダム再生のイメージ



実施と達成

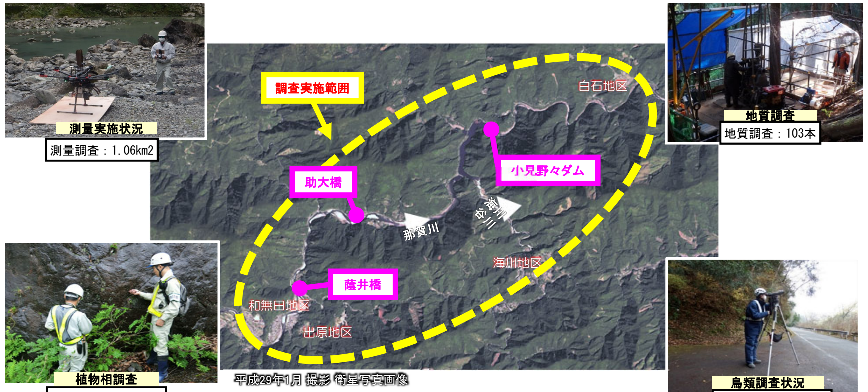
【洪水調節】

既設小見野々ダムで新たな洪水調節機能を確保すること、長安口ダムで完成した新設洪水吐を最大限活用し、予備放流水位をさらに下げ、洪水調節容量を増量することで、両ダムにより、河川整備計画における目標流量9,700m³/sのうち700m³/sを洪水調節して河道への配分流量を9,000m³/sとします。

河川名	基準地点	目標流量（m^3/s）	洪水調節流量（m^3/s）	河道整備流量（河道の整備で対応する流量）（m^3/s）
那賀川	古庄	9,700	700	9,000

【各種調査等の実施】

令和2年度より、小見野々ダム再生方法の検討、小見野々ダム周辺の地質調査や、環境調査、測量等に着手しています。



令和7年3月末時点の調査状況

今後の予定

小見野々ダム再生事業の早期建設着手に向け、堆砂対策検討、既設小見野々ダムの再生方法の検討及び小見野々ダム周辺の地質調査等を行います。

3. 長安口ダム長期的堆砂対策（長安口ダム改造事業）

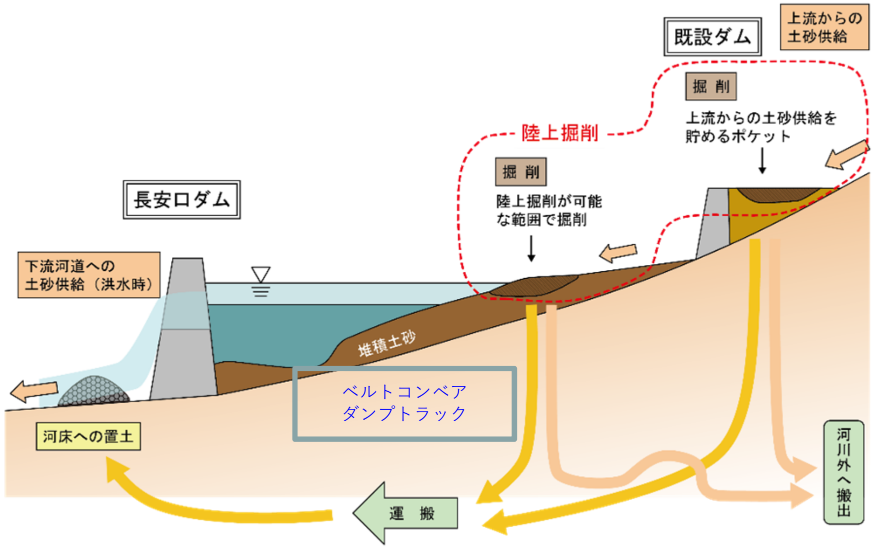
洪水を安全に流下させるための対策・流水の正常な機能の維持のための対策（国の取り組み）

事業の概要

【貯水池上流等の土砂除去（長期的堆砂対策）】

長安口ダムでは、貯水池内に流入する土砂の抑制及び有効貯水容量を確保するため、ダム上流域を中心に堆砂除去を行っています。しかし、ダンプトラックの運搬能力には限界があり、大規模な土砂が流入した場合には、有効貯水容量の確保は困難となります。そこで、貯水池に堆積した土砂を除去するとともに、追立ダム上流においても土砂を除去し捕捉容量を確保することにより長期的に有効貯水容量を確保します。

また、長期的な有効貯水容量の確保に必要となる堆砂除去土砂運搬設備（ベルトコンベア）の新設等を行います。運用にあたっては、那賀川流域全体の課題を視野に入れ、関係機関と連携し、総合的な土砂管理を推進します。



実施と達成

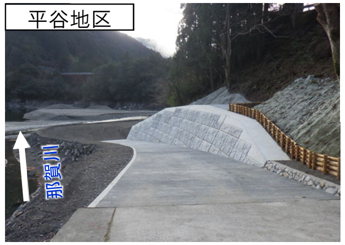
【堆砂除去の実施】

長安口ダム貯水池機能の保全のために、長安口ダム上流域（追立・十二社・川尻・平谷地区）において堆砂除去しています。平成19年から令和6年度までに約2,230千m³（平均掘削量 約124千m³ ）の土砂を除去しました。

堆積土砂掘削の様子（R6.8撮影）

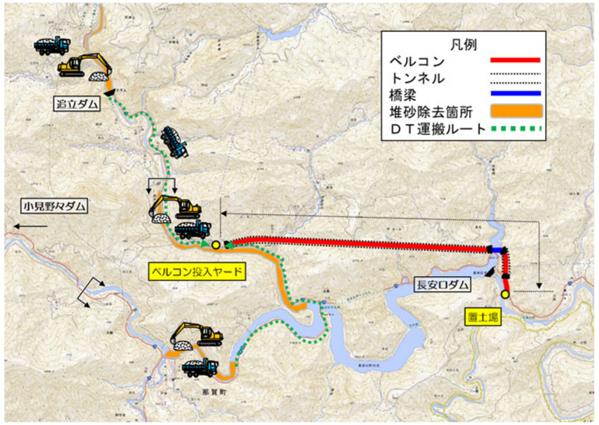
【進入路整備の実施】

令和4年度から6年度にかけて平谷地区では、貯水位低下時に早急に貯水池内へ大型車両が進入できるよう、既設進入路の延伸工事を実施しました。



今後の予定

令和7年度は、ベルトコンベア等の設計を進めるとともに、残土処分場の整備を進めます。また、堆砂除去についても引き続き実施します。

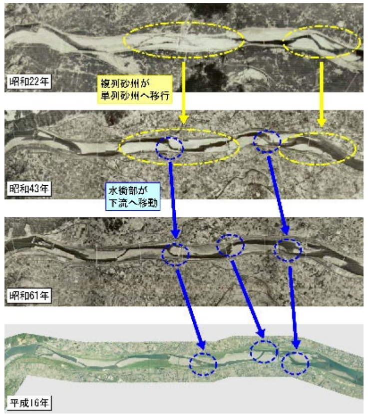


4. 侵食対策（局所洗掘対策）

侵食対策（国の取り組み）

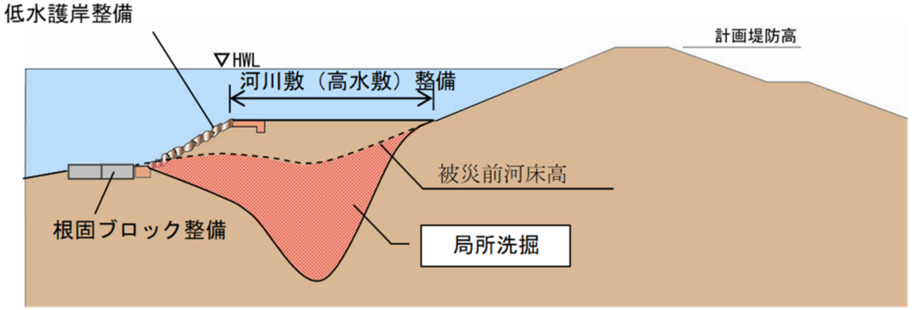
事業の概要

【那賀川における局所洗掘の発生状況】
那賀川平野における堤防については、昭和28年に概成し、直線河道として流路を整備しましたが、昭和30年代には徐々に砂州が単列化し始め、昭和40年代には交互砂州が形成されました。このため、水衝部では深掘れが進行し、砂州の移動・消失、次の砂州の形成を繰り返すことによって、局所洗掘が頻発しました。
近年では、那賀川橋（7k付近）上流において流路が固定化し、局所洗掘が進行するとともに、那賀川橋下流では単列砂州の移動により水衝部が大きく変化し、中規模洪水でも頻繁に局所洗掘が発生しています。



那賀川における砂州の経年変化

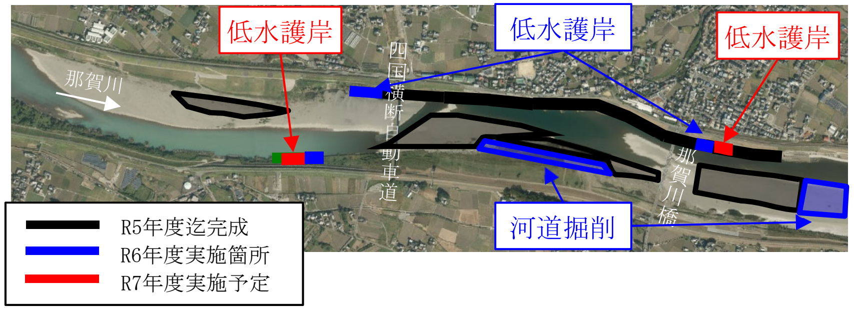
【局所洗掘対策の実施方針】
局所洗掘が進行している箇所について、高水敷及び低水護岸の整備を行い、早期に地域の安全性の向上を図る。



局所洗掘対策のイメージ図

実施と達成

令和6年度は那賀川（岩脇箇所、古庄箇所）において堆積土砂を掘削し、左岸側の高水敷及び低水護岸の整備を実施しました。



施工前（令和2年9月撮影）

施工状況（令和7年3月撮影）

今後の予定

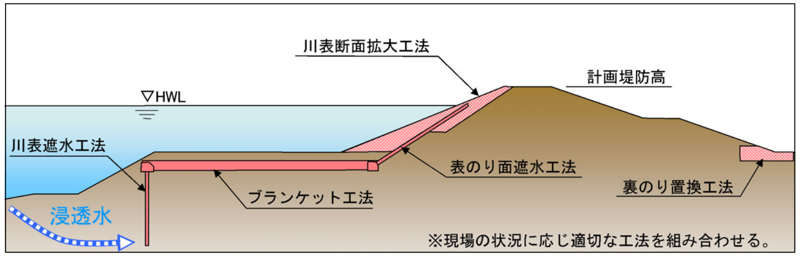
令和7年度は那賀川（古庄箇所、下大野箇所）において高水敷及び低水護岸工事を実施。（古庄箇所：令和7年度完成予定）

5. 堤防の浸透対策

堤防の浸透対策(国の取り組み)

事業の概要

洪水時において、堤防に流水が浸透し、川裏のり尻付近（民地側の堤防斜面）から漏水が発生することがあります。漏水により堤防内に水みちが形成されるため、進行することで決壊（破堤）を招く可能性があります。
堤防の浸透対策が必要と判断された区間については、堤防に流水が浸透することを防ぐ工事や堤体内の浸透水を速やかに排水する工事を行います。

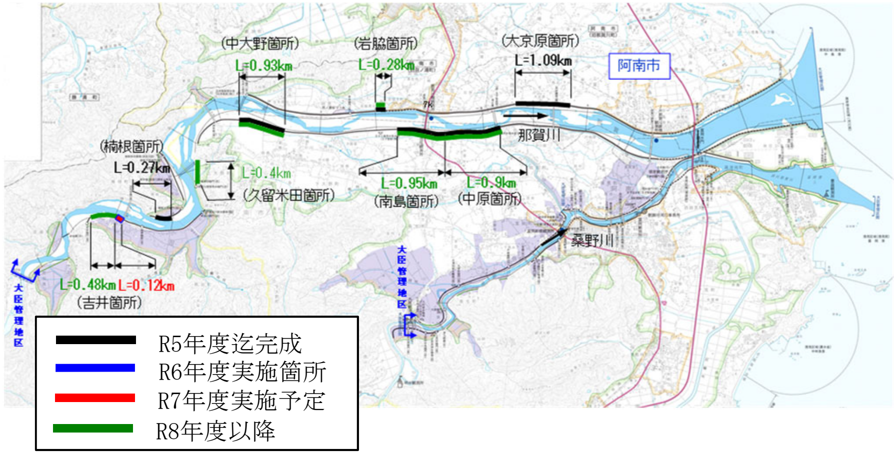


堤防の浸透対策の工事方法の例

川表断面拡大工法：堤防断面を透水しにくい材料により大きくして、河川水を浸透しにくくする。
表のり面遮水工法：川側堤防斜面（川表のり面）を護岸等により被覆することで、河川水を浸透しにくくする。
ブランケット工法：河川敷（高水敷）を透水しにくい材料（主として土質材料）で被覆することにより、河川水を浸透しにくくする。
川表遮水工法　　：川側に止水矢板等による遮水壁を設置することにより、河川水を基礎地盤へ浸透しにくくする。
裏のり置換工法　：堤防の民地側斜面の一部（川裏のり尻）をせん断強度の大きい材料で置き換え、堤体の安定性を増加させる。

実施と達成

那賀川の整備計画（浸透対策）5.4kmの内1.4kmを完了しています。



中原箇所完成（令和2年1月撮影）

楠根箇所完成（令和4年3月撮影）

今後の予定

令和7年度は、引き続き吉井箇所の用地買収等を進めていきます。

6. 大規模地震･津波･高潮への対策

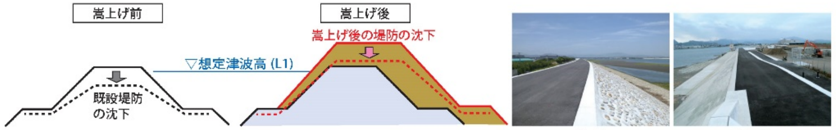
大規模地震･津波･高潮への対策（国･県の取り組み）

事業の概要

南海トラフ沖を震源とした巨大地震に備え、大規模地震・津波への対策として、那賀川・桑野川河口部の堤防の嵩上げ、液状化対策、河川管理施設の耐震化を推進します。

●堤防の嵩上げ（イメージ）

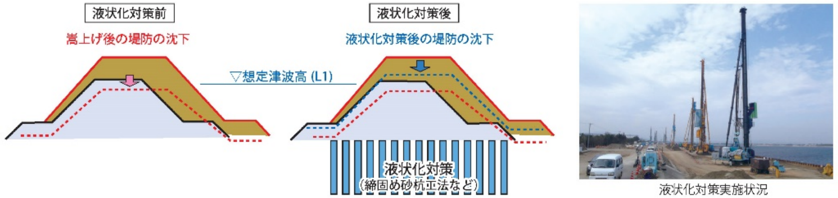
地震による液状化によって堤防が沈下し、想定される南海トラフ巨大地震によるＬ1津波から地域の安全を確保できない箇所では、堤防を嵩上げすることにより液状化で堤防が沈下してもＬ1津波から地域の安全を確保します。



施工中　施工後

●堤防基礎地盤の液状化対策（イメージ）

地震による液状化の影響が大きい箇所では、堤防を嵩上げしても想定される南海トラフ巨大地震によるＬ1津波から地域の安全を確保できないことが想定されるため、堤防下の地盤を改良するなどの液状化対策を実施しＬ1津波から地域の安全を確保します。



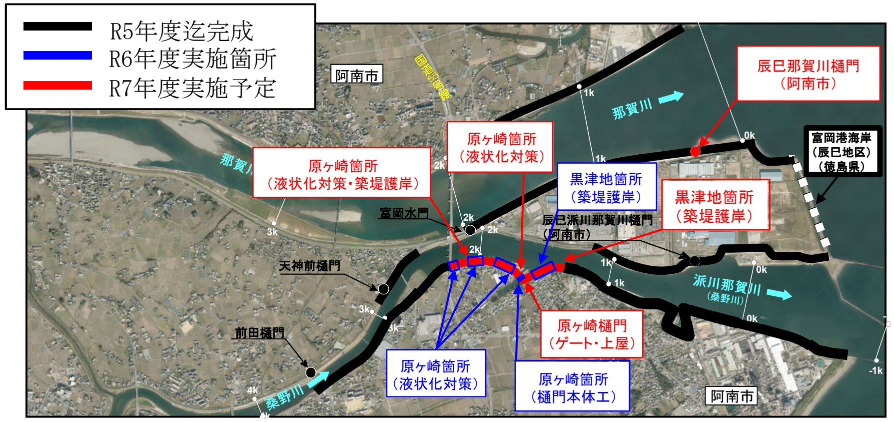
液状化対策実施状況

大規模地震により堤防、水門、排水門（樋門）等の河川管理施設の損傷や操作への支障が生じた場合、津波及び洪水による浸水被害の発生が懸念されることから、予想される被害状況、社会的状況等を考慮し、耐震対策を実施します。

樋門等の河川管理施設の門扉操作の自動化、高速化、遠隔化の対策を実施します。

実施と達成

令和3年度以降は原ヶ崎箇所、黒津地箇所の液状化対策を実施しました。那賀川・桑野川の地震津波対策は、令和7年3月時点で96%完了。



液状化対策・築堤護岸実施状況（令和7年3月）　液状化対策実施状況（令和7年3月）

今後の予定

令和7年度は原ヶ崎地区の樋門（ゲート・上屋）、液状化対策、築堤護岸及び黒津地地区の築堤護岸を進めていきます。

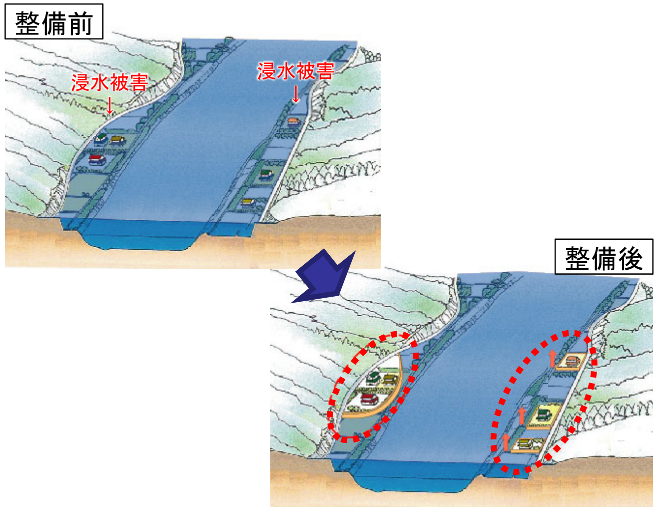
7. 那賀川の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

那賀川県管理区間は、深い山あいの中、蛇行を繰り返し、その渓谷の狭隘な河岸段丘に集落が点在しています。
その中でも、比較的人家が集中している和食地区と出原地区では、その地形に加えて、下流に狭窄部があるため、特に浸水被害を受けてきました。
整備計画流量を安全に流下させるため、堤防、浸水防止施設の整備、輪中堤・かさ上げ等、必要な整備を行います。
なお、事業の実施にあたり、必要に応じて多様な動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した環境を形成できるよう、学識者等の助言を得ながらミティゲーション（代替措置・低減措置等）を検討・実施し、河川環境に与える影響を最小限に抑えます。

位置図



整備のイメージ

実施と達成

和食地区は昭和46年8月洪水による浸水被害を受け昭和48年度より事業着手しています。その他、平成20年度から平谷地区、平成26年度から出原地区、令和2年度から十八女地区、令和3年度から阿井地区の事業に着手し、浸水被害の軽減に努めています。

今後の予定

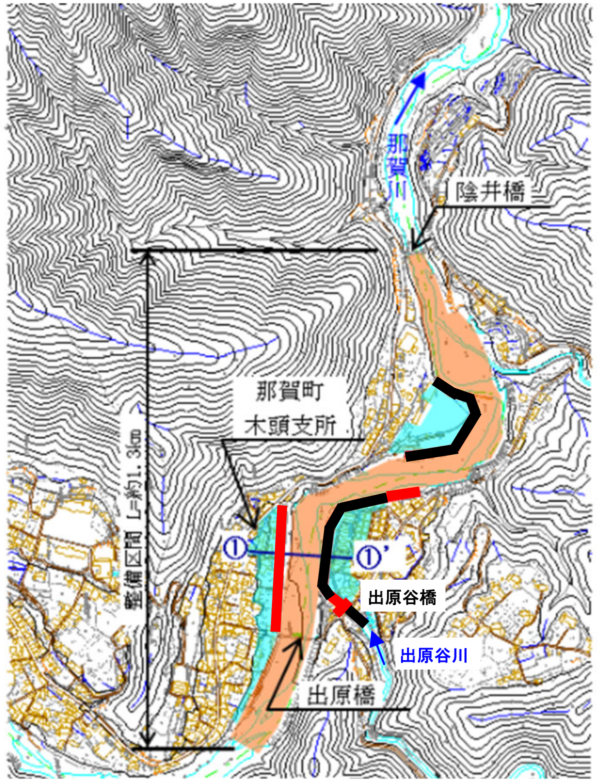
平成26年8月台風第11号をはじめとする過去の浸水被害の実績等を勘案し、優先順位の高い箇所から順次、堤防の整備や河床の整正、浸水防止施設等の整備を進めています。

7. 出原地区の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

　小見野々ダムの上流に位置する出原（いずはら）地区は、下流狭窄部の影響により、豪雨と相まって流出した土砂が堆積し、河床の上昇に伴いたびたび浸水被害を受けてきました。特に平成26年8月台風第11号では、39戸の浸水被害（床上19戸、床下20戸）が発生しました。
　整備計画流量を安全に流下させるため、堤防の整備及び河道の掘削等を行います。



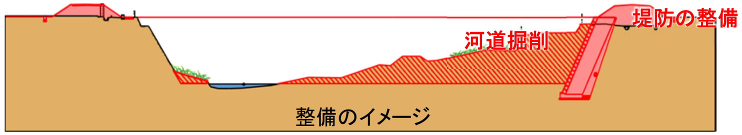
平成26年8月の浸水区域
河道の掘削
改修済区間
未改修区間

平成26年台風第11号洪水

平成26年台風第11号洪水

実施と達成

　那賀川で戦後最大流量を記録した平成26年8月台風第11号により浸水被害が発生したことから、再度災害防止を図るため、平成26年度に「災害対策等緊急事業推進費」を活用し、河道断面を確保するための河道掘削を行いました。
　河道の掘削にあたっては、魚類等の生息の場となっている瀬と淵の改変を極力行わないよう平水位以上の掘削を基本とするなど、可能な限り多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全に努めています。
　平成27年度から広域河川改修事業に着手し、堤防の整備や河道の掘削を行い、治水安全度の向上を図っています。
　令和2年度から令和5年度は、「大規模特定河川事業」を活用し、河道掘削や右岸の引堤を集中的に実施し、流下能力の向上を図りました。
　令和3年度以降は、河道掘削や右岸約180mの護岸整備、支川・出原谷橋の架け替えに係る歩行者用仮橋の架設等を実施しました。



整備のイメージ

工事実施状況

今後の予定

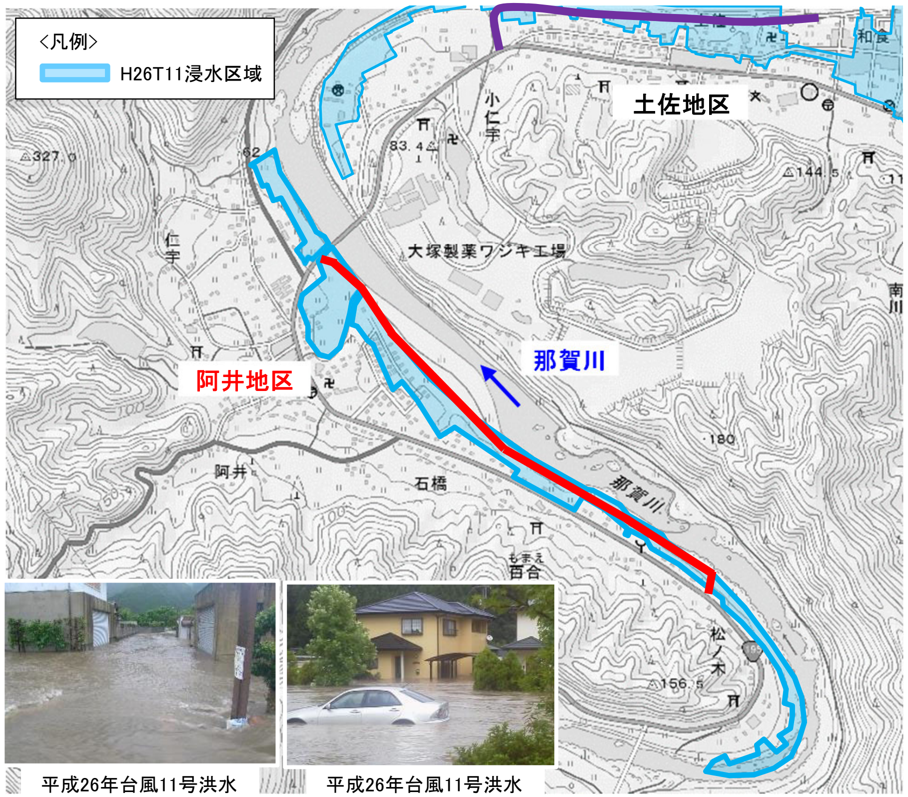
　令和7年度は、出原谷橋上部工の架け替えが完了する予定です。

7. 阿井地区の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

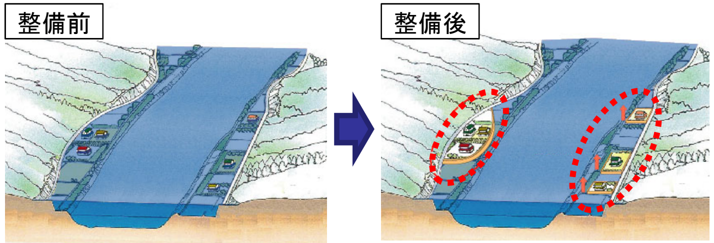
那賀町の阿井（あい）地区は、狭隘な平地に集落がありますが、堤防が築かれていない無堤地区です。これまで溢水による家屋浸水被害が発生しており、平成26年8月台風11号では、34戸の浸水被害（床上18戸、床下16戸）が発生しました。
整備計画流量を安全に流下させるとともに、地域住民の生活環境を保全しつつ、浸水被害を軽減すること等を目的として、地元との調整を図りながら堤防の整備、輪中堤、宅地かさ上げ等、現地の状況に対応した整備を行います。



平成26年台風11号洪水　平成26年台風11号洪水

実施と達成

下流の和食、土佐地区の堤防完成に続き、平成26年・27年と甚大な浸水被害を受けた、無堤地区の解消を加速化させるため、令和3年度より「事業間連携河川事業」として河川改修事業に着手しております。
長安口ダム改造事業と連携し、堤防整備を集中的に実施することで、洪水被害の軽減を図っております。
事業着手から環境調査を行いながら設計及び用地取得を進め、令和5年度末に堤防工事に着手しました。



整備のイメージ

現地状況

今後の予定

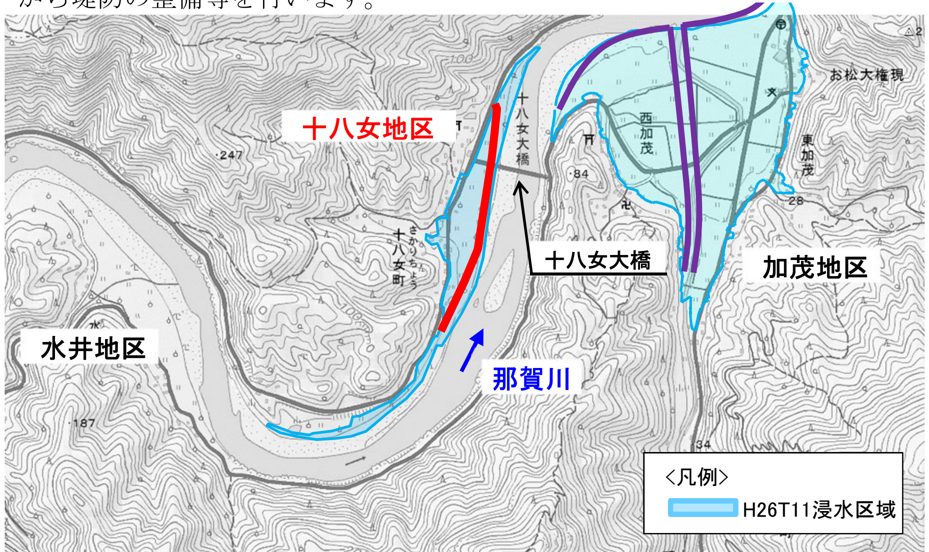
令和7年度は、引き続き用地買収を進めるとともに、堤防の整備を進めます。

7. 十八女地区の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

　阿南市の十八女（さかり）地区は、狭隘な平地に集落がありますが、堤防が築かれていない無堤地区です。これまで溢水による家屋浸水被害が発生しており、平成26年8月第台風第11号では、31戸の浸水被害（床上24戸、床下7戸）が発生しました。
　整備計画流量を安全に流下させるとともに、地域住民の生活環境を保全しつつ、浸水被害を軽減すること等を目的として、地元との調整を図りながら堤防の整備等を行います。

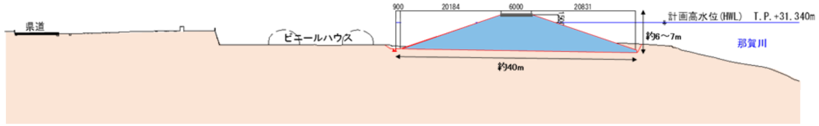


平成26年台風第11号洪水

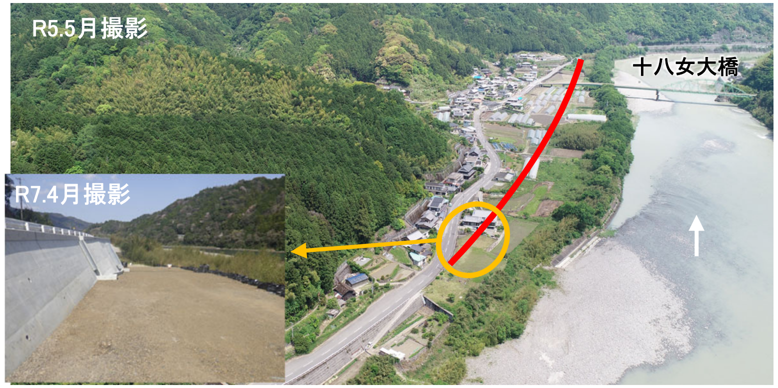
浸水痕跡（平成26年台風第11号）

実施と達成

　十八女地区下流に位置する加茂地区の堤防工事の進捗状況を踏まえ、平成26年・27年と甚大な浸水被害を受けた、長安ロダム下流に点在する無堤地区の解消を加速化させるため、令和元年度より十八女地区の河川整備事業に着手しました。
　令和3年度からは、「事業間連携河川事業」として、長安ロダム改造事業と連携し、堤防整備による洪水被害の軽減を図っております。
　事業着手から環境調査を行いながら設計及び用地取得を進め、令和5年度末に、堤防工事に着手しました。



整備のイメージ



現地状況

今後の予定

　令和7年度は、引き続き用地買収を進めるとともに、堤防の整備を進めます。

7. 宮ヶ谷川の河川整備

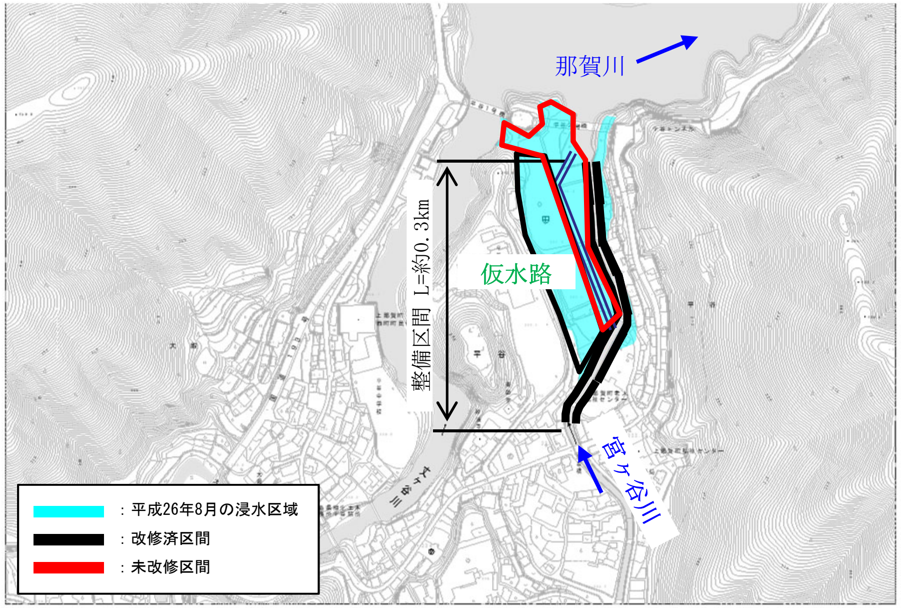
洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

宮ヶ谷川は、本川水位が堤内地盤高より高くなり、浸水被害を受けやすい状況にあり、平成21年8月洪水では31戸の浸水被害（床上26戸、床下5戸）が発生しました。近年でも平成26年8月台風第11号では、5戸の浸水被害（床上4戸、床下1戸）、平成27年7月台風第11号では、2戸の浸水被害（床下2戸）が発生しています。

整備計画流量を安全に流下させるため、　河道の整備・宅地嵩上げを行います。

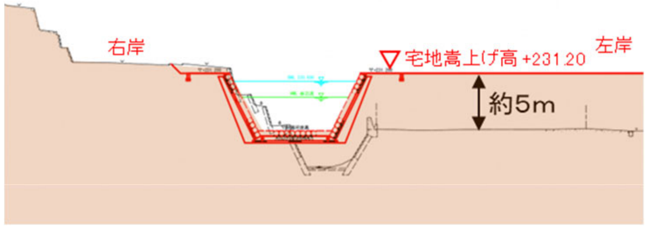
平成26年台風第11号洪水



実施と達成

平成20年度に「築堤方式」にて事業着手したところ、平成21年台風第9号に伴う豪雨により、多数の家屋浸水被害が発生し、洪水痕跡等から想定最高水位を解析した結果、従来想定していた水位より約2.3m高くなることが判明したため、浸水に対する大幅な安全度の向上と土地の有効活用が図られる「宅地嵩上げ方式」に変更して事業を実施しています。

令和4年度に全ての家屋移転補償が完了したことから、現在は自然石を活用した護岸整備や宅地嵩上げのための土砂搬入を進めており、これまでに床止工とその上流の護岸工が完成しております。



標準断面図

今後の予定

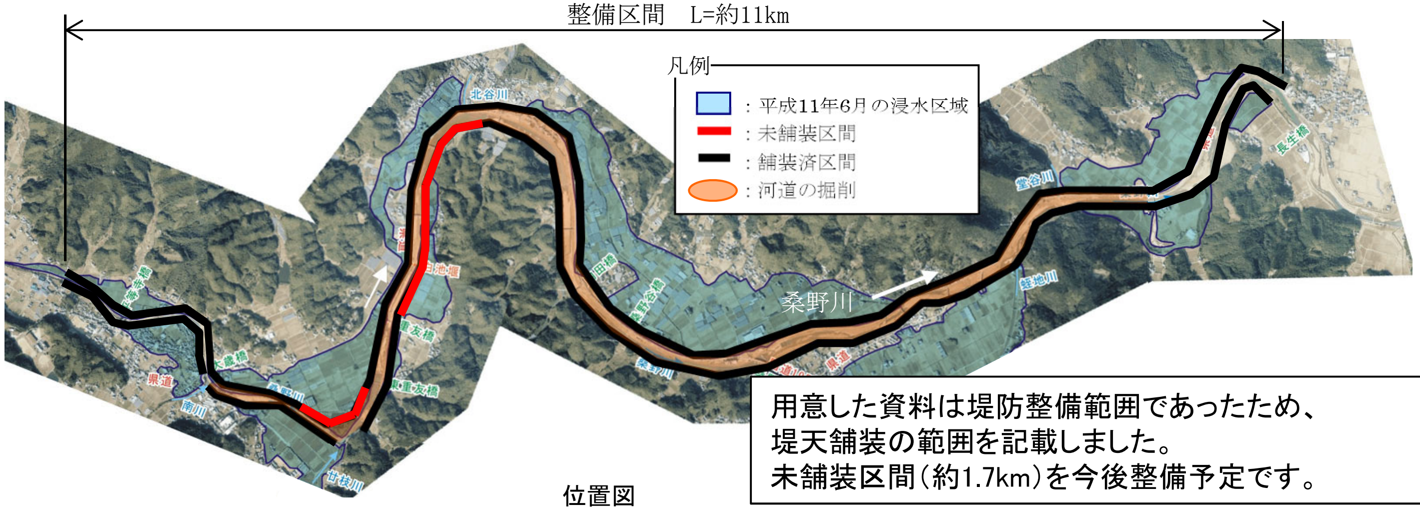
令和7年度は、護岸の整備及び宅地嵩上げを進めます。

7. 桑野川の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

桑野川(くわのがわ)は、山間平地部を水田として利用する集落が密集して存在しており、川幅が非常に狭いため、洪水のたびに浸水被害を受けてきました。
今後も、整備計画流量を安全に流下させるため、堤防の整備、河道の掘削等を行います。



用意した資料は堤防整備範囲であったため、
堤天舗装の範囲を記載しました。
未舗装区間（約1.7km）を今後整備予定です。

位置図

堤天舗装状況（桑野橋下流）

桑野川整備状況（東重友下流）

実施と達成

昭和31年に国管理区間上流端から堂谷川合流点までの2,000mの区間で河川整備に着手しました。しかし昭和40年9月に発生した洪水では、基準地点大原（県）の計画高水流量700m3/sを上回ったため、昭和44年に計画高水流量を900m3/sに変更するとともに、事業区間を北谷川合流点までの9,750mに延伸しました。その後、昭和63年に国において、水系一貫した治水計画の見直しが行われ、基準地点大原の計画高水流量が1,300m3/sに変更されましたが、県管理区間では、流域の資産状況等から従前の計画どおりとし、河川整備を進め、平成22年度に河川改修が概成しています。

また、平成10年5月～11年6月までのわずか1年余の間に3回の浸水被害を受けたことから、平成11年度より国管理区間とともに桑野川災害復旧等関連緊急事業として、引堤及び河道の掘削を実施しました。

令和3年度からは、危機管理型ハード対策として堤天舗装を実施しており、令和3年度から令和6年度において、約8,300mの堤天舗装を実施しました。

今後の予定

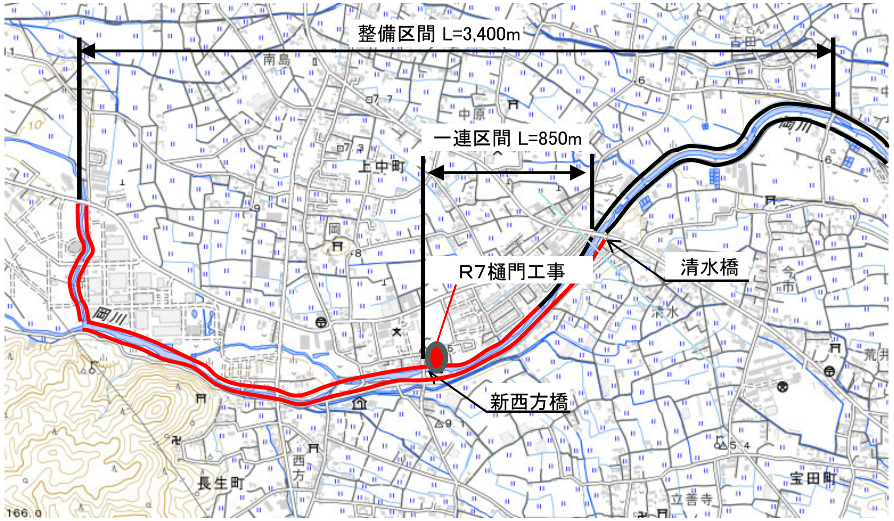
過去の浸水被害の実績、上下流の整備状況等に配慮しながら、順次整備の検討を行うとともに、危機管理ハード対策として堤天舗装を実施します。

7. 岡川の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

岡川（おかがわ）は、阿南市下大野を上流端とし、阿南市北西部を東西に流下し、桑野川に流入する河川延長約8,000mの一級河川です。
平成26年8月台風11号では34戸の浸水被害（床上12戸、床下22戸）が発生しました。
整備計画流量を安全に流下させるため、堤防の整備、河道の掘削等を行います。なお、河道の掘削にあたっては、河岸の植生を残すよう配慮するとともに、既存環境の復元、回復に努めます。



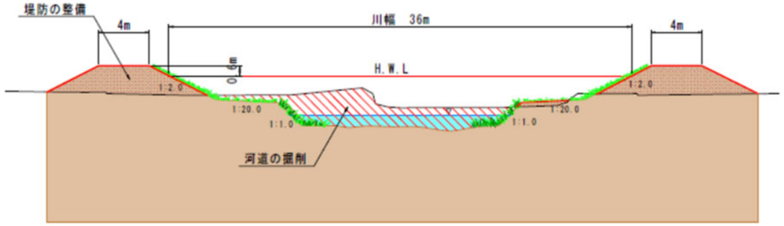
：改修済区間
：未改修区間

平成16年台風23号

平成16年台風23号

実施と達成

昭和46年度から、文化橋より上流3,400mの区間の河川整備に着手し、平成26年度に清水橋までの改修が概成しています。
清水橋から上流の整備を進めるため、清水橋から市道「新西方橋」までの約850m区間を「一連区間」と設定し、平成27年度から早期事業効果の発現が見込まれる河道掘削や樹木伐採に着手するとともに、堤防の整備を進めています。
令和3年度から令和5年度は、清水橋上流の用地取得や左岸約300mの堤防の整備を実施しました。令和6年度から樋門工事に着手しています。



整備のイメージ

整備状況（清水橋上流）

今後の予定

令和7年度は、引き続き用地買収を進めるとともに、樋門工事を実施します。

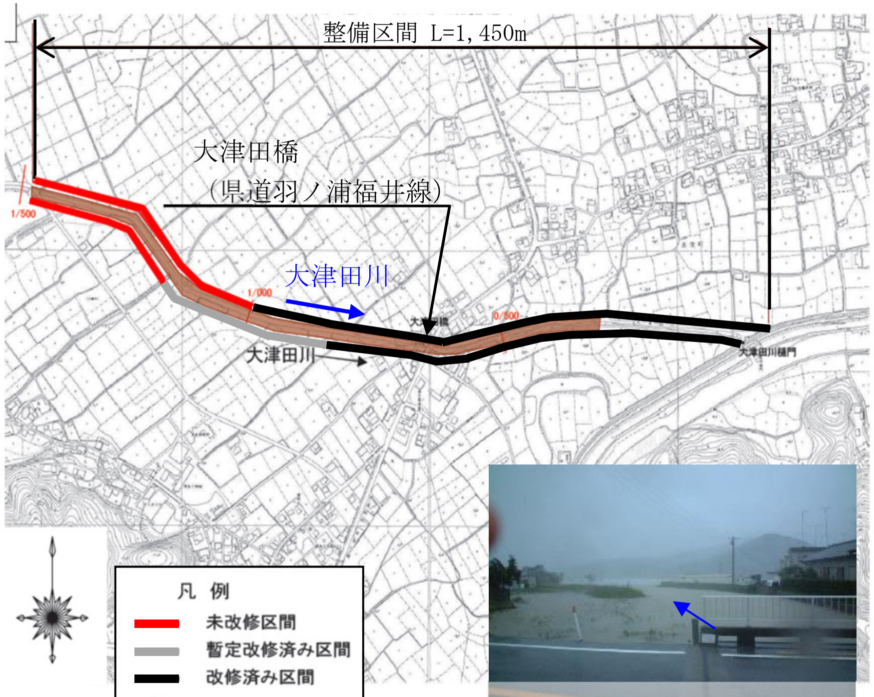
7. 大津田川の河川整備

洪水を安全に流下させるための対策（県の取り組み）

事業の概要

おおつだがわ
大津田川は、河床勾配が非常に緩く、北部は岡川、南西部は山地、東部は桑野川の堤防に囲まれており、県道羽ノ浦・福井線から上流域は地盤高が低いことも相まって、溢水による浸水被害を繰り返しています。平成11年6月豪雨では、67戸の浸水被害（床上4戸、床下63戸）、平成16年10月台風第23号では、29戸の浸水被害（床下29戸）が発生しました。

整備計画流量を安全に流下させるため、護岸の整備や河道の掘削を行います。



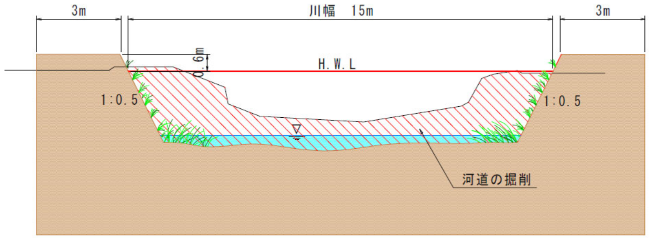
平成16年台風第23号洪水

実施と達成

昭和45年度より事業に着手し、桑野川合流点からの大津田橋下流の区間の護岸及び橋梁架替えが完了しています。さらに大津田橋上流は「日本の重要湿地500」に選ばれている地域となっており、希少種であるオグラコウホネ等が生息しているため、河川改修後、自然環境の早期回復が期待される「鉄線籠型多段積護岸工（かごマット護岸）」の整備を進めています。

令和6年度までに準用河川大谷川下流（桑野川合流点から上流約1km地点）の護岸整備を実施しました。

工事実施状況



整備のイメージ

オグラコウホネ

今後の予定

令和7年度は、引き続き河道内のモニタリング調査等を行いながら、環境に配慮した護岸の整備や河道の掘削を実施します。

8. 動植物の生息･生育･繁殖環境の保全･創出（生態系ネットワーク）

動植物の生息･生育･繁殖環境の保全･再生（国の取り組み）

事業の概要

【那賀川を基軸とした生態系ネットワークの形成】

那賀川流域の市町村、ＮＰＯ、学校、企業などの多様なつながりを活かして、河川を基軸とした生態系ネットワークを形成することにより、生物多様性の確保を図るとともに、人と自然のふれあいの場を提供することにより、地域に社会面・経済面で様々な効果をもたらすことを目指します。

徳島県流域ｺｳﾉﾄﾘ・ﾂﾙの舞う生態系ネットワーク推進協議会

■指標種：コウノトリ・ツル類

■事務局：徳島河川国道事務所・那賀川河川事務所・徳島県

- 「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の委員を中心に、コウノトリ・ツルの飛来地である県内自治体首長が参加。
- 吉野川流域・那賀川流域等の県内他流域を加えた、「徳島県流域生態系ネットワーク全体構想」を策定。

専門部会
「地域・人づくり」
「生息環境づくり」
地域ワーキングでの検討及び事業実施における専門的知見からの支援

支援

地域ワーキング
（各流域において複数の設置を目指す）

那賀川河川事務所

那賀川流域地域ワーキング

・那賀川流域生態系ネットワークは、鳴門地区と同様に、上部組織である徳島県流域ｺｳﾉﾄﾘ・ﾂﾙの舞う生態系ネットワーク推進協議会の地域ワーキングとして位置づけ、生態系ネットワークの形成を図る。

那賀川流域を対象とした既存組織との連携・協働

生物多様性あなん戦略推進協議会

那賀川自然再生検討会

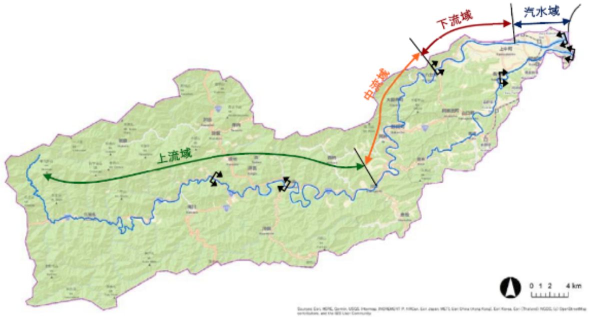
実施と達成

【生態系ネットワーク形成に向けた取組】

第1回那賀川流域地域ワーキング検討会を開催し、取組の目標・方向性・検討会やコアワーキングのメンバー等について情報の共有を行いました。

【各指標種ごとにコアワーキングを開催】

那賀川流域生態系ネットワークにおける当面の対象指標として設定した、鳥類（コウノトリ・ツル類）、魚類（アユ）について、第1回コアワーキングを開催し、それぞれのメンバー間で、これまでの取組における課題や希望について情報共有し、今後の取組内容について意見交換を行いました。



「国土数値情報（河川ラインデータ）」（国土交通省）をもとに作成

今後の予定

令和7年5月に那賀川流域地域ワーキング検討会を設立し、その後、順次、鳥類コアワーキング、魚類コアワーキングを開催しました。

今後も、那賀川流域地域ワーキング検討会及び各コアワーキングを継続して実施し、那賀川流域における生態系ネットワークの構築に向け取り組みを進めていきます。

8. 動植物の生息･生育･繁殖環境の保全･創出（自然再生事業）

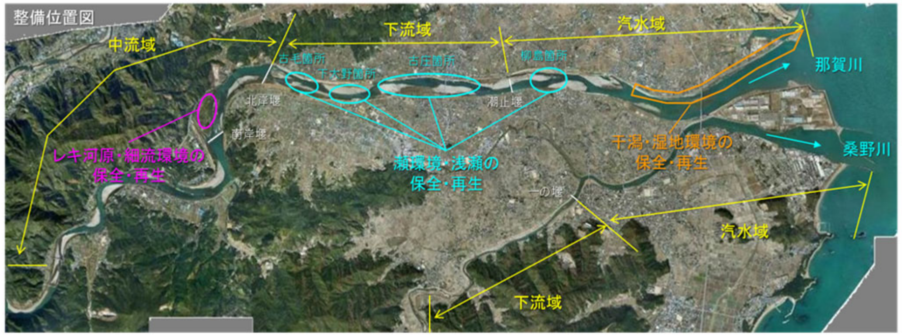
動植物の生息･生育･繁殖環境の保全･再生（国の取り組み）

事業の概要

～いきものいっぱい！那賀川の瀬･淵や湿地･干潟の復活！～

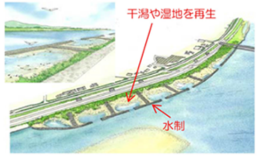
土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境は、現状のままでは自然の営力による回復は期待できないことから、関連工事等と連携して、以下の目標を掲げ多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復を目指します。

目標 ①　アユの産卵場となる瀬環境やナベヅルのねぐらとなる浅瀬などの保全・再生
目標 ②　シオマネキ等が生息する干潟環境やコウノトリ・ツル類の餌場となる湿地環境の保全・再生



樹木伐採等によりレキ河原・細流環境や浅瀬が保全・再生され、ナベヅルのねぐら利用も可能となります

河床の整正や床止工の設置等により、瀬や浅場が拡充・維持され、アユの産卵やナベヅルのねぐら利用が可能となります。



水制の設置等により湿地や干潟が再生され、シオマネキ等の多様な干潟生物の生息が可能となります。

実施と達成

自然再生事業への知識や理解を高め、地域が主体となった自主活動へ移行をするため、那賀川流域の特徴的な自然環境を教材とした環境学習や自然再生に関する座学・フィールド講座を実施しています。特に那賀川沿線の小学校では、那賀川をテーマとした環境学習が実施されており、令和6年度は2校、163名の生徒を対象としました。

水生生物調査

出前講座

アユの産卵場作り

令和6年度は、ナベヅルのねぐらとなる浅瀬の保全・再生を目的とし、古庄箇所において、河床の整正による浅場を整備しました。

施工前（令和6年8月撮影）

施工状況（令和6年12月撮影）

今後の予定

令和7年度は、引き続き那賀川流域の小学校等を対象に座学・フィールド講座を実施するとともに、古庄箇所を対象とした床止工の整備を推進します。

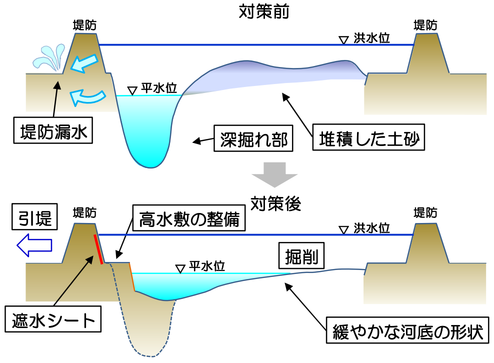
8. 動植物の生息･生育･繁殖環境の保全･創出(多自然川づくり)

侵食対策工事による浅瀬環境の再生

事業の概要

那賀川下流域では、堤防の侵食対策事業として高水敷の造成を行っています。また、那賀川自然再生事業においても「瀬環境の保全・再生」を目標としており、治水安全面（流下能力・侵食等）を確保した上で、環境整備を進めています。

土砂動態の変化等により那賀川の河川環境は、現状のままでは自然の営力による回復は期待できないことから、侵食対策工事と連携して、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出を目指す。



侵食対策の概念図

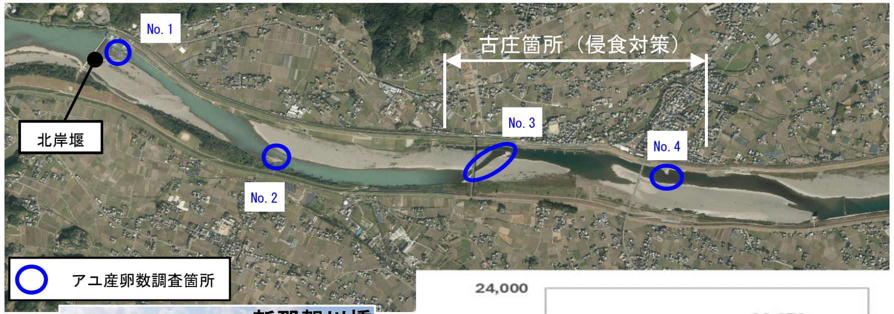
施工前

施工後

実施と達成

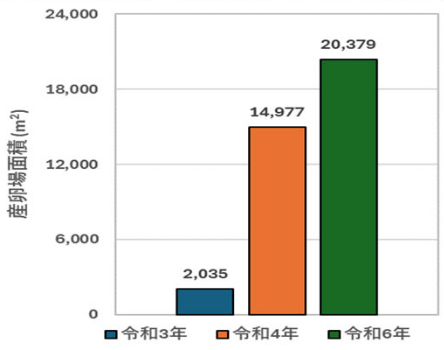
今回の整備では、仮設道路撤去にあたり、元の河床高に原形復旧するところを、河床が浅場となるよう対岸の河床掘削断面以下となる範疇で河床材を残し掘削する試験施工を行いました。

河床掘削土を用いた局所洗掘箇所の埋戻・整正を実施しており、施工後に瀬や浅場が拡大し、古庄箇所全体において、アユの産卵場面積が施工前より大幅に増加しました。



親アユ

産着卵



試験施工後瀬とアユ産卵場の検証結果

今後の予定

モニタリングを継続し、産卵場の拡大要因の検証を進め、本箇所以外の事業箇所においてフィードバックしていきます。

4. 事業進捗の見通し

4.1　当面の段階的な整備の予定

●河川改修事業

- 那賀川、桑野川の無堤地区の堤防整備を進めるとともに、楠根・吉井地区の河道掘削を実施。

●地震・津波対策

- 桑野川の対策工事を実施中であり令和7年度予算で完成予定。

●堤防の強化対策（浸透・侵食対策）

- 対策が必要な箇所について計画的に実施。

●那賀川自然再生事業

- 令和3年度より事業に着手し、那賀川の瀬・淵や湿地・干潟の復活に向け、調査や工事等を実施。

●長安口ダム改造事業

- 長期的堆砂対策について、引き続き、調査、設計等を実施。

●小見野々ダム再生事業

- 引き続き、調査、検討等を実施。

平成19年度　令和元年7月　令和30年度

令和7年7月

整備メニュー					～計画策定10年後	～計画策定30年後 令和13年度
●河川改修				【地区名等】		
那賀川	S25.9洪水対応（古庄：8,500m^3/s）	無堤地区解消		深瀬		
		河道掘削		楠根・吉井		
		無堤地区解消		加茂※		
		無堤地区解消		持井		
	概ね1/50規模対応（古庄：9,000m3/s）	河道掘削		赤池、吉井、深瀬		
		引堤		吉井		
	概ね1/50規模対応（和食：8,600m^3/s）	浸水防止施設		和食※		
		堤防の整備		土佐※		
		輪中堤・嵩上げ		十八女		
				阿井		
				水井・大井・相生		
	概ね1/10規模対応（出原：2,100m^3/s）	堤防の整備・河道の掘削等		出原		
	樹木伐採・ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ（維持）					
桑野川	H11.6洪水対応（大原：950m^3/s）	床上浸水解消（左岸引堤）		宝田・本庄・大原		
		無堤地区解消		オワタ・会下・石合		
	概ね1/50規模対応（大原：900m^3/s）	堤防の整備・河道の掘削等				
宮ヶ谷川	概ね1/30規模対応（那賀川合流点：50m^3/s）	河道の整備・宅地嵩上げ等				
岡川	概ね1/30規模対応（文化橋：150m^3/s）	堤防の整備・河道の掘削等				
畑田川	概ね1/30規模対応（岡川合流点：80m^3/s）	堤防の整備・河道の掘削等				
大津田川	概ね1/5規模対応（大津田川樋門：50m^3/s）	河道の掘削等				
廿枝川	概ね1/30規模対応（桑野川合流点：50m^3/s）	河道の掘削等				
南川	概ね1/30規模対応（桑野川合流点：120m^3/s）	河道の掘削等				
●地震・津波対策						
那賀川・桑野川（国管理区間）						
出島川（県管理区間）						
●堤防の浸透対策				【地区名等】		
那賀川（国管理区間）				大京原、岩脇、南島、吉井等		
●侵食対策				【地区名等】		
那賀川（国管理区間）				赤池、古庄、古毛、柳島、下大野		
●水辺ネットワークの構築						
「桑野川かわまちづくり整備」						
「那賀川かわまちづくり整備」						
●那賀川自然再生事業						
那賀川（国管理区間）						
●長安口ダム改造事業						
長安口ダムの放流能力の増強等						
長期的堆砂対策の実施等						
●小見野々ダム再生事業						
既設ダムの有効活用等						

：国管理区間の整備中または予定予定　：県管理区間の整備中または予定
：国管理区間の整備完了　：県管理区間の整備完了

5. その他（那賀川を学ぶ講座　～ふるさとの川、那賀川を知ろう～）

　那賀川流域の活性化に取り組む「那賀川アフターフォーラム」が結成20年を迎え、今後に向け、那賀川流域の住民、那賀川に興味のある人に集まってもらい、那賀川を学び、那賀川のことが議論ができるようにして、那賀川の問題点は何かを理解し、そして解決の糸口を考えることが出来るようにすることを目的に「那賀川を学ぶ講座」を開催しています。

□主催：那賀川アフターフォーラム
□講師：湯城豊勝阿南高専名誉教授、野本粋浩香川大学特命教授、那賀川河川事務所、
　　　　臨時講師（田村隆雄徳島大学准教授、青木正繁阿南防災士の会副会長）
□時期：令和6年9月～令和7年8月（講座12回、現地視察2回）
□時間：90分（講義60分、ワークショップ30分）
□参加者：32人

講座参加者

講義の状況

ワークショップの状況

現地視察の状況

講座内容

（令和7年6月28日までは実施済、7月26日以降は今後の予定）

那賀川を学ぶ講座

NO	年	月日	テーマ	内容	担当	場所
1	R6	9月28日	那賀川の概要	那賀川平野の成り立ち、雨の降る仕組み、気候変動（台風の巨大化・狂暴化、線状降水帯）各地に発生する最近の水災害・液状化災害の紹介 那賀川からの恩恵	湯城	(旧)鷲敷
2		10月26日	自然環境	森林から海までの環境、河川の水と砂の流れ、生態系環境、生活との係わり	那賀川 湯城	(旧)相生
3		11月30日	遺産・文化	流域に残る災害遺産・防災遺産・河川遺産、人形浄瑠璃等文化遺産	湯城	阿南
4		12月21日	那賀川災害史・改修史	藩政期以降の災害と改修の歴史	湯城	阿南
5	R7	1月25日	堤防	堤防築造の歴史、堤防の脆弱性とその補強、加茂・和食堤防、桑野川引堤、無堤地区（那賀川・桑野川）	野本	阿南
6		2月22日	ダム	長安口ダム、小見野々ダム、川口ダム等の目的・規模・操作等	野本	阿南
7		3月29日	那賀川の水利用	水循環、発電、農業用水、工業用水、上水とその関連施設	野本	阿南
8		4月26日	森林（臨時講師）	森林の役割・価値、良い森林・悪い森林、森林の現状	田村	阿南
9		5月31日	那賀川の防災情報とその対応	気象情報、ダム放流情報、河川水位情報	那賀川 河川	(旧)木頭
10		6月28日	避難（臨時講師）	避難場所・避難所、避難所の運営法と要点	青木	阿南
11		7月26日	河川整備の仕組み	河川法の変遷、河川整備基本方針（気候変動による変更）、 河川整備計画の策定への地域住民の係わり	野本	阿南
12		8月30日	流域治水とは何か	今後の流域治水では自分たちに何ができるか	那賀川 河川	阿南
S1	R6	11月9日	上流（災害跡、ダム）の視察：和食堤防、長安口ダム、高磯山、 木頭・木沢土石流跡、小見野々ダム堆砂状況等、紅葉		湯城 那賀川	阿南 阿南
S2	R7	5月27日	下流（堤防、治水・利水施設）の視察：堤防、ガマン堰、水門・樋門等		湯城 那賀川	阿南